

消防学校 ニュース



平成30年10月31日発行

専科教育、幹部教育等いよいよ本格スタート！

ハードな訓練の連続！消防職員専科教育「救助科第35期」



いよいよ年度後半。その一番手は「救助科」です。県内全16消防本部から43人が10月3日(水)に入校し、10月31日(水)までの約1か月間、大規模災害対応能力の向上に主眼を置いた、厳しく、そして密度の濃い教育訓練を受けました。



現場指揮要領



10/5

大阪市消防局 本池 圭蔵 講師 緊迫感があり、実際に災害現場にいるような空気の中での講義だ…



(災害救助対策) 航空救助

10/5

県消防防災航空隊が大活躍！



10/12

実火災体験型訓練



コンテナ内で火災性状等を体感！



10/4



訓練を本番に、本番を訓練に
静岡県消防学校専科教育救助科第35期

災害救助対策

渋川広域消防本部（前消防長）の青山 省三 講師を囲んでの集合写真

10/11

火災対応救助



交通救助

10/10

車外救出



10/29 車両構造



10/23 低所救助



10/26 加圧排煙戦術



10/17

USAR技術訓練「ブリーチング」
(驚嘆！消防学校の最新資器材の破壊力！)



都市型 検索救助

USAR技術「クリッピング」
(持ち上げた重量物の下から進入開始)



10/22 現場指揮要領



10/15



被災者に対する
メモを使つての呼び掛け

10/19



高所救助

中盤になって
やっとロープ
を使用しての
訓練が開始さ
れた…
隊員たちが
生き生きと
活動始める

NBC災害対応訓練



10/18

震災時 対応訓練

志太消防本部藤枝消防署
がれき訓練施設及び訓練センターにて



自然環境での高さ20mからの降下



10/25

山岳救助

静岡市消防局千代田消防署しずはた出張所「山岳訓練場」にて

「土砂埋没救出」(全ての要救助者を救出できず悔しがる隊員一同)

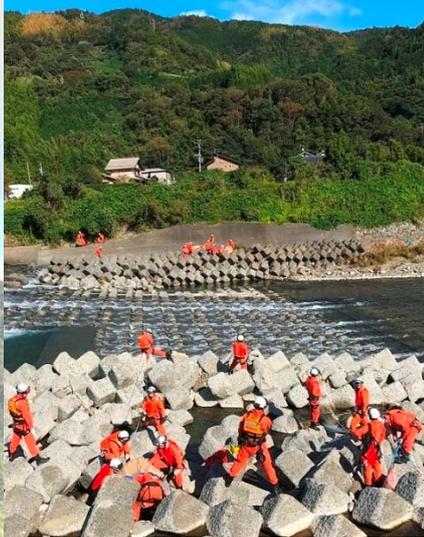
新たな挑戦!!

新たな挑戦!!

興津川での中州救助訓練

10/24

今回の訓練は、近年多発している自然災害に対する救助技術の向上を図るため、富士市消防本部の救助隊を教育支援隊として招き、消防学校の間近を流れる興津川(二級河川)を使用して、編み構造ロープを使用したロープ展張訓練、橋の欄干を使用した降下訓練、三連はしごの水平架梯訓練などを実施しました。初めて実際の河川を使用している自然環境の下、充実した訓練となりました。



ドローンにより上空から訓練の様子を撮影



救命索発射銃によりロープを対岸に投てき

消防救助のオレンジ色に寄せられる
国民の信頼と期待に応えよう!

10/30

道路築造工事現場での土砂埋没救助・トレンチレスキュー

今回の訓練は、静岡市の市有地を借用し、一般社団法人清水建設業協会と協会員(鈴与建設株式会社)の協力を得て初めて実施したものです。訓練では、トレンチ(深さ1.5m、幅2.0m)に対する崩落防止措置及び土砂埋没者の救出について、訓練生が主体となって企画し、活動をしました。貴重な経験を得る機会となりました。



バックホーも導入



本県と「防災に関する相互応援協定」を締結している台湾新北市消防局の廖 裕宏(りょう ゆうこう)消防司令も訓練に参加しました。



事故、けがもなく全員無事修了!
今回の成果を各所属にフィードバック!

約10年ぶりに復活!

消防職員幹部教育「初級幹部科第20期」



本年度の幹部教育もスタートです。

消防職員の初級幹部科は、昭和50年度に開設され、平成4年度以降は1年或いは2年おきに中級幹部科と交代で実施し、平成19年度第19期を最後に休止しておりました。

近年、団塊世代の退職等に伴う消防職員の若年化が進む中、新たに幹部職員となる者はより高い実践的能力と実務能力を備え、ベテラン職員の減少、現場経験の不足による災害対応能力低下の懸念を払拭することが必要となっています。こうした事情を踏まえ、消防組織体制の基盤強化を図るため、初級幹部科の約10年ぶりの再開です。

10月15日、県内9消防本部から、文字通り初級幹部職員として組織の要を担う11人が入校し、10月26日までの実10日間、消防時事、人事業務管理、安全管理等に係る講義や課題研究、火災や大規模災害を想定した指揮訓練など、多岐にわたる内容で、より専門的な知識や手法を習得することをねらいとした教育訓練が行われました。

学校長講話



惨事ストレス対策(救助科合同)



課題解決技法



危機管理
と防災対策



小型無人機操作研修Ⅰ(座学)・Ⅱ(実習)



現場指揮要領【指揮訓練Ⅰ】
(救助科合同)



座学と実科訓練

課題研究・発表(Ⅰ～Ⅴ)



実火災体験型訓練
(ホットトレーニング)



指揮訓練Ⅲ
(多数傷者発生時対応訓練)



講師とともに集合写真



指揮訓練Ⅱ
(火災想定小隊訓練)



One Chot ワンチョット(チョイネタ)コーナー

初級幹部科第20期生は教育訓練期間中、救助科第35期生と一緒に入寮生活を送りました。

10月18日(木)、救助科が校外研修のため、朝の7時台に学校を出発しようとしていたとき、ふと屋外訓練場に目をやると、なんと初級幹部科生全員が指令台付近で一生懸命に何かをやっています。それは通常点検の練習です。彼らは在校期間中、週1度の通常点検を救助科と合同で2回行います。初級幹部科として、救助科には負けられない、そのような心意気が朝一番から感じられた「ワンチョット」でした。



消大レポート



われら精鋭部隊!
【教官紹介コーナー】



主査 岡崎 和臣 (志太消防本部から派遣)

平成 30 年 9 月 4 日から 10 月 5 日までの1か月間、消防大学校(東京都調布市深大寺)における「第80期救急科」へ入学してきました。全国から48名の救急救命士が集まり、高度な救急医療知識、指導者としての識見、技能管理を学ぶことができました。消防大学校の様子を報告します。



「副総代」としても頑張りました



多数傷病者対応訓練



「多数傷病者対応訓練(救助科合同)」「各種学会での発表等を想定した研究発表」「想定訓練の企画・運営」などの技術習得、更には「NBC 救急対策」「DMAT 連携」「惨事ストレス対策」「高齢者医療対策」など、著名な講師陣による様々な最新の講義内容により充実した日々を過ごしてきました。

杏林大学病院 山口 芳裕 教授



(独法)国立病院機構災害医療センター 小井土 雄一 臨床研究部長



一般財団法人 救急振興財団 山本 保博 会長との全体写真

東京医科歯科大学 大友 康裕 教授



静岡県消防学校教官として、消防大学の教育システムを肌で感じる貴重な機会にもなりました。



今回得た財産を消防学校における教育や所属本部、県内各種機関との連携に生かしていきたいと思ひます。



専科教育

警防科第13期

10月13日(土)～10月14日(日)



火災防ぎょ関係は、座学と実科訓練により実施し、実科訓練では「ホース延長要領」(狭い室内や階段室等でのホース設定方法の習得)、「各種注水要領」(高温・熱気が充満した室内でフラッシュオーバーの発生を遅らせる外部からの注水方法の体験)、「破壊器具取扱要領」(チェーンソー及びエンジンカッターの実践的な取扱方法を習得)に取り組みました。



県内21の市町から60人が入校し、一泊二日の日程で、火災防ぎょ活動、現場での安全管理、各種災害時における消防団の役割と活動内容について学ぶとともに、事例研究を通して入校生同士の積極的な意見・情報交換等を行いました。

中核的な役割を担って現場活動を!



幹部教育

初級幹部科第10期

10月27日(土)～10月28日(日)



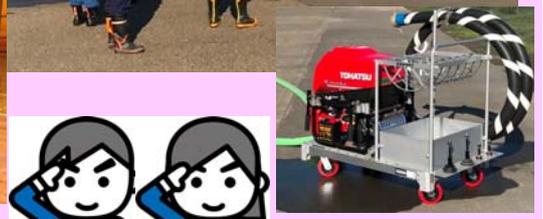
県内17市町からの43人の入校生に対し、消防団初級幹部としての職責の自覚、消防団運営に必要な規律、災害活動要領、安全管理、地域住民への防災指導要領についての理解・習得を主題として、一泊二日の教育訓練を実施しました。

特に、災害活動における現場指揮訓練では、消防庁から本校に無償貸与されている小型無人機(ドローン)と小型動力ポンプを活用し、訓練内容の充実強化を図りました。

組織体制の基盤強化! 災害対応能力の向上!



初級幹部科は第1期が平成17年度のスタートで、25年度まで毎年度実施していましたが、東日本大震災を踏まえた消防団幹部教育の見直しにより、26年度から「指揮幹部科」を新設し、初級幹部科は休止としておりました。今般5年ぶりの再開です。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

